

# 生と死をつなぐケア

老いとぼけに関わるヒトの世界は、真面目で滑稽な出来事であふれています。そこから創られる介護に希望はあると思います。27年目を迎え、ふたつの宅老所とひとつの特養を運営する「よりあい」の現状とこれからをご報告します。

**札幌**

2019年

10:30

日時：11月13日(水) ▶▶16:00

会場：市民活動プラザ星園

( 中会議室 )

(北海道札幌市中央区南8条西2丁目5-74)

☆地下鉄東豊線・豊水すすきの駅6番出口より徒歩約5分。  
地下鉄南北線・中島公園駅1番出口より徒歩約5分

(むらせ たかお)

**講師：村瀬 孝生**

特別養護老人ホーム「よりあいの森」施設長。



1964年、福岡県飯塚市生まれ。東北福祉大学を卒業後、特別養護老人ホームに生活指導員として勤務。1996年から、「第2宅老所よりあい」所長を務める。2015年4月より現職。著書に『ほけてもいいよ』(西日本新聞社)『看取りケアの作法』(雲母書房)など多数。

プログラム (昼食・休憩あり)

## 生活を共に創る — 主体を大切にするケア

キーワードは「わたしとあなた」、「生身の主体」、「わからない」、「合意」、「自由」。今日の私は、昨日の私と同じではありません。プランと標準化された介護は、お年寄りと介護者を過去に縛り付けてしまいます。介護される側もする側もイキイキしたい。お年寄りと一緒に今日を創りましょう。

## 作業からの脱皮 — ひとりに添うケア、集いを楽しむケア

スタッフの中心的な仕事は、お年寄りのそばに一緒にいること。一緒に美味しいお茶を飲み、一緒に食べる時間を楽しむこと。集いによる「場の力」は個別ケアを豊かにします。介護を作業にしないために大切なことは、現場裁量とスタッフの柔軟なチームプレーです。

## 介護を地域に還す — ひとりを支援するケア

とにかく施設に鍵をかけません。行動を抑制するために薬漬けにすることもしません。そのためには、施設から外に出て歩くお年寄りの見守りを、地域住民のひとりひとりをお願いします。その積み上げが地域ケアを創る可能性を持っています。さらに、地域ケアは労いを生むのです。

## 看取りケアの作法 — 暮らしの中にある死

看取りは、あくまで暮らしの延長線上にあります。スタッフは合宿しながら、その臨終を家族と共有してきました。日頃から五感をフルに活用して「体を触る介護」は、寿ぎのある死に着地します。医療からもっとも遠い場所でこそ、人間的な看取りが可能となるのです。

\*受講料はお送りしません。満員でお断りする場合のみ一週間以内にご連絡さし上げます。

**【受講料：7,000円】**

\*受講料は当日会場で承ります。

主催

**なるほどケア塾**

お問い合わせ

☎042-306-3771

〒189-0011

東京都東村山市恩多町 3-39-13-101 榎門窓社内

お申し込みはこちらへ Fax

**Fax：042-306-3772**

<参加人数>

<参加者名>

\*施設の場合は施設名もご記入ください。

11/13(水)札幌

( )名

<住所>〒

(自宅・職場)

<TEL>

<FAX>